



■プロフィール
大正十一年、神戸市生まれ、昭和十五年旧制灘中学校卒業後、製材会社、天竜市教育委員会委員、同収入役を経て、昭和五五年から現職・「事を處するには心あるべからず」をモットーに「信頼される政治」を強調・古い日本画鑑賞と旅が趣味・血液型B。

この人と30分



ぶらり訪問④

林材一体、 トップを走り続ける。

ほん だ なお ひこ
天竜市長 本多直彦 氏

訪問インタビュー第四回は、木材産地天竜を行政面からご支援頂いている本多直彦天竜市長。去る五月下旬、公務ご多忙の市長室をぶらり訪問。

Q、昭和五八年以降の天竜木材センター構想の中
で、印象深いことは？

何といっても林材業が一体となって行ったこと。これは簡単なようでいてなかなか難しい。これが出来ていなければ、今の天竜産地がこれだけの事業を起こし、注目を集めることはなかったと思う。

市長就任時は不況対策としての利子補給予算を組む程の低迷期。事業の成否は業界の意欲次第なので、多額の投資を伴うプレカット事業に林材業界の理解が得られるか非常に不安だった。幸い業界が乗り、燃えてくれた。補助金は林業界で、経営は木材業界での林材一体の危機意識が好結果となったが、業界に良きリーダーがいたことが何より大きかった。

Q、木の文化都市づくりの理念、今後は？

三十〜四十年のサイクルの林材業振興は、一地方自治体で出来ることはごく僅か。実際に木を使うことを通し、木に対する市民の意識高揚を狙ったのが、天竜市の文化都市宣言だった。文部省の学校施設への木材使用促進や建設省等の諸施策に沿って学校の内装木製化、学童机・椅子、木製遊具、H O P E(地域住宅)計画「天竜の家」づくりや市街地のポケットパーク整備等を進め、市民には身近に木を感じてもらい、産業的には地域外への販売もしており、成果はあがりつつある。

Q、今後の天竜産地、行政としては何を？

当面この八月に開催される全国高校総合体育大会関連施設整備に木を多用し、業界に弾みがついた。これからは業界の方々が結束して進めていただくことが何よりも大切。去る四月、木製品販売施設・

もくもくセンターのオープン
は業界主導の好例だと思う。
行政として当面の問題は、

高齢化する地域林材業の原動力となる労働者確保を中心とした労務問題。経営後継者はいるが、そこで働く人達が少ない。今年度は、外国人労働者も含めた労働者の確保について、林材業だけでなく商工会も含めて研究してゆきたい。

Q、最後に木材業界に向け、ひとこと。

ここ十年間、天竜の林材業界はよくやってきたと思う。「えらかったな」というのが実感。しかし、トップランナーになることよりも、トップランナーとして走り続けることの方が格段に難しい。

基盤整備のための林材業振興協議会は解散したが、ある意味ではこれからが本番。今後とも林材結束してリーダーを育て、さらに儲かる産業を目指してほしい。
そのために行政は応分の支援を続けてゆきたい。

(文責 編集室)